

単元名 (旧)からだでかんしょう(鑑賞)

配当時間

1時間

- 単元の目標 (1) 作品や作品から受けた感じを表すために、体の使い方を工夫することができる。
 (2) 作品の特徴を見付け、表したい形を考えることができる。
 作品を真似るために作品の特徴をとらえたり、体で味わって気付いたことや面白さを友達に伝えたり、感じ取ったりすることができる。
 (3) 体を使って作品のよさを感じる楽しさを味わおうとする。

標準的な展開例

04080207_001

【準備等】美術作品の図版、デジタルカメラ、投影機器

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 体を使って作品のよさや面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、活動への興味と見通しをもつ。 ★体を使って作品のよさや面白さを味わおう 作品を鑑賞し、作中の人物のポーズ、あるいは作品の感じから受ける印象を体で表してみる。 どのように体で表すかグループで話し合い、よりよくしたり、協力したりして表す。 体で表してみて気付いた作者の意図や、友達との表し方の違いについて話し合う。(言語活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書3・4下 P.48, 49 教科書の写真から美術作品をまねしたり、作品から受ける感じを体で表したりする際に注目しているところについて考えさせる。 鑑賞する美術作品の図版は、体を使って鑑賞しながら、随時児童が見ることができるように掲示、または投影する。 美術作品の中の登場人物のポーズや服装などのディテールに特徴のある美術作品、作品から受ける印象が強い美術作品を選ぶとよい。 児童が十分に体を動かすことができるようなスペースであるか、危険なものがないか安全面に留意する。 作品の感じに合った場所を選んで、デジタルカメラで写真を撮らせる。 体で表すことを通して、作者の意図を想像させたり、自分と友達との表し方の共通点や違いに気付かせたりする。 同じ作品でも感じのとらえ方が異なっていることに留意させる。 <p>【評】体を使っているいろいろな試みながら味わったり、気付いたことや面白さを友達に伝え、友達の気付いたことを受けとめたりする活動を通して、「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】